

項目	自己評価	中・長期経営目標	短期経営目標	主な取組内容	取組内容の評価指標	達成状況	改善方針	学校関係者評価	学校関係者評価	
確かな学力	A	学習の基礎基本が身に付き、自ら課題解決しようとする子どもを育てる。	①全国学力・学習状況調査において、全国平均+6P以上にする。	②高知県学力定着状況調査において、県平均より+5P以上にする。	③標準学力調査において、評定1の児童を1割以下にする。	④教員が指導方法とともに研修することで、授業の質が上がり、探究的な学習が行われる。	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査：全国平均 +6P以上 ・高知県学力定着状況調査：県平均より+5P以上 ・標準学力調査：各学年 評定1…1割以下 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査：全国平均 +10P以上達成 ・高知県学力定着状況調査：標準学力調査：各学年 評定1…約3割(5月) ・Basicガイドブックを活用し、より授業改善に努めている。 	全国学力平均10P以上達成と香長つ子タイムの成果が出てきている。今後とも香長つ子タイムの継続を行ってほしい すべての子ども達に授業が分かるよう先生方の課題として取り組んでほしい。	A
			<ul style="list-style-type: none"> ・生活科、総合的な学習の時間、算数科を継続して研究する。 ・各学級が年間2回以上の授業研究を行い、課題を把握する。 ・学力調査等の分析をし、学校全体での対策(学力分析のPDCAサイクルを回す) ・香長つ子タイム、放課後教室(より、基礎基本の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート「授業がよくわかる」：肯定的回答 90%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート「授業がよくわかる」：肯定的回答 90.1% ◎ 					
			<ul style="list-style-type: none"> ・子どもにわかる授業づくり(授業づくりスタンダードの活用など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート「家で宿題や予習の勉強をしている」：肯定的回答 93%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート「家で宿題や予習の勉強をしている」：肯定的回答 97.2% ◎ 					
			<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習カードの有効活用により、子どもの努力に肯定的評価をし、やる気と内容の向上を進めていく。 ・予習⇒授業⇒復習のサイクル化を取り入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予習⇒授業⇒復習がサイクル化しつつあり、また、継続して予習的な内容で課題を与えるなど自主学習を中心に意図的に家庭学習に予習を含めていく。 						
豊かな心	B	自信をもって生活でき、仲間意識をもって行動する子どもを育てる。	学校評価アンケートの「読書が好き」「自分には良いところがある」「何事も頑張る」「学校のきまりを守る」よく考えて行動する」において、ほとんどの児童が肯定的に回答する。	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の読書、読み聞かせの継続 ・読書関係のコンクールへの取り組み ・特別活動の充実 ・意識調査等の分析 ・道德の時間の充実により、道德実践力を向上させる。また、道德授業を全学年で公開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート「読書が好き」：肯定的回答 95%以上 ・「自分には良いところがある」：肯定的回答 90%以上 ・「何事も頑張る人になりたい」：肯定的回答 95%以上 ・「学校のきまりを守っている」：肯定的回答 95%以上 ・「よく考えて行動できている」：肯定的回答 90%以上 ・「あいさつを進んでいる」：肯定的回答 95%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート「読書が好き」：肯定的回答 81.7% ▼ ・「自分には良いところがある」：肯定的回答 83.1% ▼ ・「何事も頑張る人になりたい」：肯定的回答 98.6% ◎ ・「学校のきまりを守っている」：肯定的回答 86.0% ▼ ・「よく考えて行動できている」：肯定的回答 82.3% ▼ ・「あいさつを進んでいる」：肯定的回答 91.5% ○ 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任も読み聞かせをするなど読書の楽しさを伝えていき、授業の中で図書館利用の機会を増やしていく。 ・親子読書を保幼から取り組んでもらうよう保育園、幼稚園にもお願いする。 ・主体性をもたせるような工夫や取り組みを考えていく。 	学校内での問題が子ども達に影響が出ていたように感じました。一番に子ども達の事を考えて指導して欲しい。読書が好きなポイントが下がってきています保小連携をし本を読む楽しさを教えてください。	B	
			<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な運動に全校で取り組む。(例えば、ジャックナイフストレッチ・握力等) ・運動を楽しむ環境づくり(設備、体育集会の充実、持久走など) ・縦割り班を利用した体育的な活動を設定し、運動する習慣づくりをする。 ・体育講習会の実施(基礎的な運動能力、水泳、バスケットボールなど) ・校内に運動に関する掲示をし、児童に運動に関する情報提供を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国体力・運動能力テスト：全国平均以上 ・学校評価アンケート「運動を進んでいるか」：肯定的回答 85%以上 ・「普段の日のゲームやテレビの時間を2時間以内」：肯定的回答 80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国体力・運動能力テスト：(結果待ち) ・学校評価アンケート「運動を進んでいるか」：肯定的回答 88.8% ◎ ・「普段の日のゲームやテレビの時間を2時間以内」：肯定的回答 69.1% ▼ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャックナイフストレッチや握力ゲームに毎日取り組んできたことや体育の時間や体育委員会の取組が充実してきたことが考えられ、引き続き取り組んでいく。 ・休み時間には外で体を動かすことを奨励し、できるだけ教職員子どもと一緒に体を動かすことに挑戦する。 ・引き続き「ノーテレビ・ノーゲーム習慣」を実施し、分析・情報発信をしていく。 	ノーテレビ・ゲームの取り組みはいいと思う。しかしポイント的に見ると取り組みの成果が出ていない。今後も家庭の協力を必要とし取り組みの達成をしてほしい			B
保護者地域との連携	B	保護者・地域に開かれた信頼される学校となる。	①学校行事なども工夫し、保護者・地域が児童を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの保護者や地域の方に参加してもらえるような行事内容を考え、学校運営への参画、協力を多くしていく。 ・学校支援地域本部を中心としながら、取り組みを充実させていき、積極的に外部人材を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート「児童は学校生活に満足」：肯定的回答95%以上 ・「学校は連絡や情報提供に積極的」：肯定的回答95%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート「児童は学校生活に満足」：肯定的回答94.4% ○ ・「学校は連絡や情報提供に積極的」：肯定的回答88.9% ▼ ・学級通信、学校便りの発行：昨年度と同等 ・ホームページの更新：月1回以上 × ・地域の方の参加行事等について 内容の充実 ○ 		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域の方に参加しやすく、気軽に来校してもらえるように行事内容を考えることや、コミュニティ・スクウェア推進委員会を機能させ、地域学校協働本部への加入など学校運営への参画、協力を多くお願いしていく。 	学校の情報発信が少ないように思う。もっと地域への学校便りや広報を発信してほしい保護者との連携はとれていると思う。運動会参観日等の集まりは評価できる。	
			②新設保育園との連携により、香長地区の育てたい子ども像を共有し、ともに育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育に関する研修を年間3回以上実施する。 ・ユニバーサルデザインの授業づくりをし、視覚支援により学習効果を高めていく。 ・定例の校内委員会を実施し、効果のあった支援方法については記録に残し、全教職員で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育に関する研修：年間3回以上 ・研究授業での評価項目「視覚支援」：平均3.5以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育に関する研修：年間5回実施 臨川Dr. 5/11・7/6 是永準教授 7/14・12/19・2/22 ・研究授業での評価項目「視覚支援」：平均3.75 ・校内委員会の定例化 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育に関する研修を校内研として全教職員で実施する。 ・ユニバーサルデザインの授業づくりに努め、視覚支援により学習効果を高めていく。 ・定例の校内委員会を実施し、職員会で情報交換をしなが、効果のあった支援方法については全教職員で共有する。 	特別支援については課題取り組み等も改善されていると思うが、一人一人に応じた支援してほしい。また家庭との連携が必要と思う。保護者と共に取り組めるよう活動してほしい。		B
特別支援教育	B	子ども一人一人の教育的ニーズに応じて、全教職員が支援する体制ができる。	①特別に支援を要する児童の特性を理解し、個に応じた支援を全教職員ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育に関する研修を年間3回以上実施する。 ・ユニバーサルデザインの授業づくりをし、視覚支援により学習効果を高めていく。 ・定例の校内委員会を実施し、効果のあった支援方法については記録に残し、全教職員で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育に関する研修：年間3回以上 ・研究授業での評価項目「視覚支援」：平均3.5以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育に関する研修：年間5回実施 臨川Dr. 5/11・7/6 是永準教授 7/14・12/19・2/22 ・研究授業での評価項目「視覚支援」：平均3.75 ・校内委員会の定例化 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育に関する研修を校内研として全教職員で実施する。 ・ユニバーサルデザインの授業づくりに努め、視覚支援により学習効果を高めていく。 ・定例の校内委員会を実施し、職員会で情報交換をしなが、効果のあった支援方法については全教職員で共有する。 		特別支援については課題取り組み等も改善されていると思うが、一人一人に応じた支援してほしい。また家庭との連携が必要と思う。保護者と共に取り組めるよう活動してほしい。	